

平成 25 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 24 年度実績 兼 平成 25 年度以降に係る計画)

【1枚目】

事業コード	71120001	部・課・係名等	コード1	03020100	政策体系上の位置付け	コード2	711002	予算科目	コード3	001060303
事務事業名	森林病害虫等防除事業	部 名 等	産業建設部		政 策 の 柱	基5 豊かな自然と共生したまちづくり		会計	一般会計	
予算書の事業名	4.森林病害虫等防除事業	課 名 等	農林水産課		政 策 名	1 自然環境の保全・継承		款	6. 農林水産業費	
事業期間	開始年度 平成9年度 終了年度 当面継続 業務分類 5. ソフト事業	係 名 等	業務林政係		施 策 名	1. 水と緑の保全と活用		項	3. 林業費	
実施計画(H25～H27)への記載	有(一般) 実施計画(H26～H28)における区分 一般・継続・変更無	記入者氏名	森岡 勉		区 分	なし		目	3. 造林事業費	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	電話番号	0765-23-1036		基 本 事 業 名	森林の整備・保全				

事業概要(どのような事業か)	実施計画への記載予定事業内容	単 位	上段・計画：下段・実績										
			23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度
<p>県内唯一の「航行目標保安林」として指定され、魚津市の歴史的価値を有する天神山において、松林の保全活動を実施している。また、近年被害が拡大している「カシノナガキクイムシ」について、ナラ類の保全活動を実施している。</p>	<p>H26 病害虫駆除</p> <p>H27 病害虫駆除</p> <p>H28 病害虫駆除</p>												
<p>対象</p> <p>&lt;この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など&gt;</p> <p>天神山の松林 市内のナラ類</p>	<p>対象指標</p> <p>① 魚津市松くい虫被害対策自主事業計画が対象とする松(天神山)</p> <p>② カシノナガキクイムシ被害木</p> <p>③</p>	本	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193	193
<p>手段</p> <p>&lt;平成24年度における事業見直しの有無&gt; &lt;平成24年度の活動及び見直し内容&gt;</p> <p>見直し無 天神山の松林における松くい虫の防除(薬剤樹幹注入) 処理立木18本 ナラ類におけるカシノナガキクイムシの防除(薬剤樹幹注入) 処理立木46本</p> <p>&lt;平成25年度までの主な活動内容&gt;</p> <p>天神山の松林における松くい虫の防除(薬剤樹幹注入) 処理立木18本</p>	<p>活動指標</p> <p>① 処理立木(松)</p> <p>② 処理立木(ナラ類)</p> <p>③</p>	本	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
<p>意図</p> <p>&lt;この事務事業によって、対象をどのように変えるのか&gt;</p> <p>松くい虫については、被害を受けた天神山において、被害の程度を終息型の微害とすることを目的とする。カシノナガキクイムシについては、森林公園等で景観の保持が必要な森林や枯損木が新たな山地災害の誘因となる恐れがある森林などにおいて、被害の軽減を図る。</p>	<p>成果指標</p> <p>① 被害本数の割合(松)</p> <p>② 被害本数の前年度比(カシナガ)</p> <p>③</p>	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
<p>その結果</p> <p>&lt;施策の目指すがた&gt;</p> <p>森林の健全な育成を図り、良好な生態系が維持されること。</p>	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入												
<p>◆この事務事業開始のきっかけとこれまでの事務事業見直しの経緯</p> <p>天神山の松くい虫被害の発生年度は不明。平成9年度作成の富山県松くい虫被害対策事業推進計画(平成13年度までの5ヶ年計画)に記載があることから、事業が現在の形になったのはこの頃からと推測される。カシノナガキクイムシについては、魚津市は平成17年に始めて被害が確認(県内で確認されたのは平成14年度福光町)されており、同年から事業を開始している。</p>	費 目		実績		計画								
<p>◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)</p> <p>松くい虫については、平成10年度までに被害木を伐倒撤出しており、それ以降は予防措置として薬剤樹幹注入(薬効4年間)を実施している。カシノナガキクイムシについては、被害が減少しており、今後終息するものと推測される。</p>	財源内訳	(1)国・県支出金	(千円)	2,301	679	279	279	279	279	279	279	279	
<p>◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入)</p> <p>なし</p>	支出内訳	(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
<p>◆県内他市の実施状況</p> <p><input type="radio"/> 把握している</p> <p><input checked="" type="radio"/> 把握していない</p>	把握している内容又は把握していない理由の記入欄	(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
<p>◆市民と行政の協働状況</p> <p><input type="radio"/> 協働している</p> <p><input type="radio"/> 協働可能だが未実施</p> <p><input checked="" type="radio"/> 協働になじまない</p>	把握していない理由の記入欄	(4)一般財源	(千円)	281	226	93	93	93	93	93	93	93	
	各市町によって施行内容が異なるため。	子算(決算)額((1)～(4)の合計)	(千円)	2,582	905	372	372	372	372	372	372	372	
	◆選択した協働状況の内容又は理由の記入欄	(1)需用費	(千円)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	行政が行う事業であることから。	(2)委託料	(千円)	2,582	905	372	372	372	372	372	372	372	
		(3)工事請負費	(千円)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(4)負担金補助及び交付金	(千円)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		(5)その他	(千円)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		A. 子算(決算)額((1)～(5)の合計)	(千円)	2,582	905	372	372	372	372	372	372	372	
		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	140	140	140	140	140	140	140	140	140	
		B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	607	616	616	616	616	616	616	616	616	
		事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	3,189	1,521	988	988	988	988	988	988	988	
		(参考)人件費単価	(円@時間)	4,336	4,399	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	4,400	

【目的妥当性の評価】

1. 基本事業との直結度 (事務事業の意図が基本事業の意図にどのくらい直結しているか、その理由も記載)			
● 直結度大 ○ 直結度中 ○ 直結度小	説明	一旦発生した病虫害から森林を保全するためには、人為的に防除を行うことが即効性の観点から最も有効であると考えられる。	
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)			
○ 法令などにより市による実施が義務付けられている			
● 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) なため、市による実施が妥当			
○ 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当			
○ 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当			
○ 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当			
根拠法令等を記入		事務の区分	自治事務
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合その理由と内容を説明、できない理由も説明)			
あり	説明	松くい虫被害に関しては、現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。 カシナガ被害に関しては、被害が極端に減少しており、事業を休止する。	

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理由も説明) ※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入			
なし	説明	成果実績	中位
松くい虫については被害が終息しており、予防的措置として継続していく必要がある。 カシナガキクイムシについては、平成24年度の被害はほとんどなく、ほぼ終息したと考えられる。			
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明、できない理由も説明)			
なし	説明	連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事業はない。	

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)			
あり	説明	松くい虫については、予防的措置を講じているものなので、事業費の削減余地はない。 カシノナガキクイムシについては、被害が極端に減少しており、事業を休止する。	
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)			
あり	説明	カシノナガキクイムシの事業が休止となることで削減。	

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)			
なし	説明	病虫害から森林を保全するために行っている事業であり、適正化の余地なし。	
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)			
平均	説明	概ね適正といえる。	

★ 評価結果の総括と今後の方向性			
(1) 評価結果の総括			
① 目的妥当性	○ 適切	● 目的廃止又は再設定の余地あり	
② 有効性	● 適切	○ 成果向上の余地あり	
③ 効率性	○ 適切	● コスト削減の余地あり	
④ 公平性	● 適切	○ 受益者負担の適正化の余地あり	
(2) 今後の事務事業の方向性			
○ 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施			
○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止			
○ 他の事務事業と統合又は連携			
● 目的見直し			
● 事務事業のやり方改善			

★ 改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	平成26年度	コストの方向性 削減
	中・長期的 (~5年間)	成果の方向性 維持
カシナガ被害に関する事業を休止する。		
枯損木の対処と、後継樹の育成確認		

★ 一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
早急に対処すべき事業であり、緊急度の高い箇所から順次実施していかなければならない。		
		不要

★ 二次評価 (経営戦略会議・部会)	

平成 25 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 24 年度実績 兼 平成 25 年度以降に係る計画)

【1枚目】

事業コード	71120002	部・課・係名等	コード1	03020100	政策体系上の位置付け	コード2	711002	予算科目	コード3	001060303
事務事業名	水と緑の森づくり事業	部 名 等	産業建設部		政 策 の 柱	基 5 豊かな自然と共生したまちづくり		会計	一般会計	
予算書の事業名	8.水と緑の森づくり事業	課 名 等	農林水産課		政 策 名	1 自然環境の保全・継承		款	6. 農林水産業費	
事業期間	開始年度 平成19年度 終了年度 平成28年度	係 名 等	業務林政係		施 策 名	1. 水と緑の保全と活用		項	3. 林業費	
実施計画(H25～H27)への記載	無	記入者氏名	森岡 勉		区 分	なし		目	3. 造林事業費	
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	電話番号	0765-23-1036		基 本 事 業 名	森林の整備・保全				

◆事業概要 (どのような事業か) 人家、耕地周辺などの里山林(モウソウ竹林含む)、小規模な風雪被害林やカシノガキクイムシの被害木の伐採跡地などで、整備及び管理又は利用について地域の合意形成が図られている森林を対象に、地域や生活に密着した里山の再生整備を行う。		◆実施計画への記載予定事業内容		上段・計画：下段・実績												
		H26		単 位	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度		28年度	
		H27														
		H28														
対 象	<この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など> 富山県森づくりプラン又は市町村森づくりプランで、里山林の整備対象とされている人家や道路、耕地周辺の森林(竹林含む)を有し、一定のまとまりがある4ha以上～15ha以下の森林を対象とする。		対 象 指 標	① 計画整備面積	ha	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220	220
				②												
				③												
手 段	<平成24年度における事業見直しの有無> <平成24年度の活動及び見直し内容> 見直し無 事業実施地区の里山の整備や管理・利用についての計画の策定や、そのために必要な森林調査や森林所有者の3者による協定の締結後、広葉樹やモウソウチクなどの伐採、玉切り、集積を行う。		活 動 指 標	① 整備面積(累計)	ha	61.5	89.5	111.6	144.2	176.8	209.4					
	<平成25年度の主な活動内容> 事業実施地区の里山の整備や管理・利用についての計画の策定や、そのために必要な森林調査や森林所有者の3者による協定の締結後、広葉樹やモウソウチクなどの伐採、玉切り、集積を行う。			②												
				③												
意 図	<この事務事業によって、対象をどのように変えるのか> 放棄され暗くなった里山林を地域の合意のもと策定された計画に基づいて伐採など整備を行い、明るい里山を再生する。		成 果 指 標	① 実施率	%	27.95	40.68	50.73	65.55	80.36	95.18					
				②												
				③												
その結果	<施策の目指すがた> 人の生活圏に侵入する有害鳥獣との棲み分けを図る。		↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入													
◆この事務事業開始のきっかけとこれまでの事務事業見直しの経緯 平成18年6月に森づくりの理念、施策の基本方針、県の計画策定などを「富山県森づくり条例」を制定。また、これに伴う新たな施策の財源として「水と緑の森づくり税」を平成19年4月1日から導入し、事業が始まる。その後平成23年度に、平成24年度から平成28年度まで5年間の事業が延期される。				費 目		実 績		計 画								
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 魚津市内のサルやクマ、イノシシなどの有害鳥獣による農作物の被害金額は年々増加傾向にある。				財源内訳		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度					
				支出内訳												
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 市民から、サルやクマ、イノシシなどの有害鳥獣目撃情報は絶えない。				◆把握している内容又は把握していない理由の記入欄 平成24年度 黒部市 19地区 滑川 7地区		(1)国・県支出金	(千円)	12,323	20,644	21,080	21,080	21,080	21,080	21,080	21,080	
◆県内他市の実施状況 ● 把握している ○ 把握していない				◆選択した協働状況の内容又は理由の記入欄 事業実施時のエリア選定については、地域の合意形成を図り事業を進めているが、その後長期的な管理に関しては各地区任せとなっている。		(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0	0	0		
◆市民と行政の協働状況 ● 協働している ○ 協働可能だが未実施 ○ 協働になじまない						(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0	0			
						(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0				
						子算(決算)額(1)～(4)の合計	(千円)	12,323	20,644	21,080	21,080	21,080	21,080			
						(1)需用費	(千円)	198	685	700	700	700				
						(2)委託料	(千円)	12,023	19,594	19,980	19,980	19,980				
						(3)工事請負費	(千円)	0	0	0	0	0				
						(4)負担金補助及び交付金	(千円)	0	0	0	0	0				
						(5)その他	(千円)	102	365	400	400	400				
						A. 子算(決算)額(1)～(5)の合計	(千円)	12,323	20,644	21,080	21,080	21,080				
						①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2				
						②事務事業の年間所要時間	(時間)	500	500	500	500	500				
						B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	2,168	2,200	2,200	2,200	2,200				
						事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	14,491	22,844	23,280	23,280	23,280				
						(参考)人件費単価	(円@時間)	4,336	4,399	4,400	4,400	4,400				

【目的妥当性の評価】

1. 基本事業との直結度 (事務事業の意図が基本事業の意図にどのくらい直結しているか、その理由も記載)			
● 直結度大 ○ 直結度中 ○ 直結度小	説明	森林が有するCO2削減効果をはじめとする多面的機能を保持し活かすとともに、有害鳥獣による農林水産物や生活環境被害の軽減、人身被害の防止を図ることは、非常に公共的な意義が大きい。	
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)			
● 法令などにより市による実施が義務付けられている			
○ 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間(市民・企業等)によるサービスの実施が不可能(又は困難)なため、市による実施が妥当			
○ 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当			
○ 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小(廃止)が妥当			
○ 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当			
根拠法令等を記入	水と緑の森づくり事業交付金等交付要綱	事務の区分	自治事務
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合その理由と内容を説明、できない理由も説明)			
なし	説明	現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。	

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明、できない理由も説明) ※成果指標の計画と実績との比較に基づき記入			
なし	説明	成果実績	中位
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明、できない理由も説明)			
なし	説明	連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業はない。	

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)			
なし	説明	単単事業	
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)			
なし	説明	現状で概ね適正と考える。	

【公平性の評価】

8. 受益機会の適正化の余地 (受益の機会が偏っていて不公平でないか)			
なし	説明	適正	
9. 受益者負担の適正化の余地 (県内他市と比較し、適正な水準か)			
平均	説明	適正	

★ 評価結果の総括と今後の方向性			
(1) 評価結果の総括			
① 目的妥当性	● 適切	○ 目的廃止又は再設定の余地あり	
② 有効性	● 適切	○ 成果向上の余地あり	
③ 効率性	● 適切	○ コスト削減の余地あり	
④ 公平性	● 適切	○ 受益者負担の適正化の余地あり	
(2) 今後の事務事業の方向性			
● 現状のまま(又は計画どおり)継続実施			年度
○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止			
○ 他の事務事業と統合又は連携			
○ 目的見直し			
○ 事務事業のやり方改善			

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	平成26年度	日のある明るい里山を整備し拡大していく。 コストの方向性 維持
	中・長期的 (~5年間)	同上 成果の方向性 維持

★一次評価 (課長総括評価)		二次評価の要否
森林が有するCO2削減効果をはじめとする多面的機能を保持し活かすとともに、里山荒廃による鳥獣被害を軽視するためにも重要な施策のひとつである。目的税が原資であり効果を考慮しながら実施していく必要がある。		不要

★二次評価 (経営戦略会議・部会)	